



ネット講座と合わせて学習しよう！

助詞の用法Ⅰ

今回の目標——接続助詞「ば」、格助詞「の」の働きと、係り結びの特殊用法を覚えよう。

【接続助詞】「ば」

「ば」は仮定・原因理由・偶然・必然の意味を持つ助詞です。

〈ここに注目しよう〉

●接続助詞「ば」の意味

- ① 仮定（もし）…ならば
- ② 原因理由（…ので）
- ③ 偶然（…「する」と／…「した」ところ）
- ④ 必然（…「する」といつも）

●「ば」の意味の見分け方

- ・未然形に接続する場合は仮定。
- ・已然形いぜんに接続する場合は原因理由・偶然・必然。
- ・まず原因理由で訳し、つながりが悪いときは偶然で訳す。
- ・「必ず」という意味を持つ必然は、例外なくそうなる、という場合にのみ用いる。

《その他に押さえておきたい接続助詞》

- が ……①単純接続（…が…と） ②逆接の確定条件（…が…けれども）
- に・を ……①単純接続（…と…ところ） ②逆接の確定条件（…のに…けれども）
- ながら ……①逆接の確定条件（…が…けれども） ②動作の同時進行（…ながら）
- もの・ものを・ものから ……逆接の確定条件（…が…けれども…のに）

【例題】 接続助詞「ば」(その他の接続助詞を含む)

問一 接続助詞「ば」の意味を、次の①・②の問いに従って答えなさい。

- ① 未然形に接続するのは…〔 〕
② 已然形に接続するのは…〔 〕

問二 次の傍線部の助詞の文法的意味を答えなさい。

- ① 悪人のまねとて人を殺さば、悪人なり。(徒然草)
② 京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。(伊勢物語)
③ 疑ひながらも念仏すれば、往生す。(徒然草)
④ 見渡せば山も霞む水無瀬川夕べは秋と何思ひけむ(新古今和歌集)
⑤ 世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし(古今和歌集)
⑥ 翁、心地あしく、苦しきときも、この子を見れば、苦しきこともやみぬ。(竹取物語)

問三 次の傍線部の助詞の文法的意味を答えなさい。

- ① つかはしし人は夜昼待ち給ふに、年越ゆるまで音もせず。(竹取物語)
② 身はいやしなから、母なむ宮なりける。(伊勢物語)

【格助詞】「の」

「の」は主格・連体修飾格・同格・準体言・ひび比喩の意味を持つ助詞です。

——>この項目について<——

●格助詞「の」の意味

- ①主格 (…が)
- ②連体修飾格 (…の)
- ③同格 (…で)
- ④準体言 (…のもの・…のこと)
- ⑤比喩 (…のような・ように)

●「の」の意味の見分け方

- ・下に用言が来たら主格。
- ・下に体言が来たら連体修飾格。
- ・下に体言を伴わない連体形がある場合は同格であることが多い。
- ・下に断定の助動詞「なり」や助詞が来たら準体言。
- ・上に「夢・雲・露」などのたとえや、「例」が来たら比喩であることが多い。
- ・「の、」の形は主格か同格。まず同格で考え、該当しない場合は主格で考えるとよい。

《その他に押さえておきたい格助詞》

より・から ……①起点 (…から) ②比較 (…に比べて) ③経由 (…を通して) ④手段・方法 (…で・…によって)

⑤即時 (…するとすぐに) ※②と⑤は「より」だけ。

にて ……①場所・時間 (…で) ②手段・材料 (…で) ③原因・理由 (…で・…のために)

【例題】格助詞「の」（その他の格助詞を含む）

問一 次の傍線部の助詞の文法的意味を答えなさい。

- ① 雪の降りたるは言ふべきにあらず。(枕草子)
- ② 中将、例のうなづく。(源氏物語)
- ③ 草の花はなでしこ。唐のはさらなり。大和のもいとめでたし。(枕草子)
- ④ 夢に、いと清げなる僧の、黄なる地の袈裟着たるが来て、(更級日記)
- ⑤ おのが芸の、まさりたることを喜ぶ。(徒然草)
- ⑥ この国^aの博士ども^bの書けるものも古^cのは、あはれなること多かり。(徒然草)
- ⑦ ややもせば消えをあらそふ露の世に遅れ先立つほど経ずもがな(源氏物語)
- ⑧ 白き鳥のはしと足と赤き、しぎの大ききなる、水の上に遊びつつ魚を食ふ。(伊勢物語)

問二 次の傍線部の助詞の文法的意味を答えなさい。

- ① ただ一人、徒歩より詣でけり。(徒然草)
- ② 名を聞くより、やがて面影は推しはからる心地するを、(徒然草)

「係り結びの特殊用法」

係り結びは文末が連体形や已然形いぜんぎょうに変化する通常の働きのほかに、結びの省略や結びの流れ、また特別な訳を取る形があります。

〈ここに注目しよう〉

●係り結びの基本法則

①意味：係助詞「ぞ」「なむ」「こそ」は強意（訳さなくてもよい）、「や」「か」は疑問・反語（「やは」「かは」の形で反語となることが多い）。

②結びの活用形：係助詞「ぞ」「なむ」「や」「か」 → 結びは連体形。

※係り結びではないが、疑問の意を表す副詞「いかが」「いかに」「などで」「なども、結びは連体形になる。

係助詞「んむ」

→ 結びは已然形。

●結びの省略

係助詞が文末となつてしまい、結びとなる語を含む言葉が省略される場合がある。

〈例〉 人にぞ（ある）。 人にや（あらむ）。 人にこそ（あれ・あらめ）。 「に」は断定の助動詞

「あはれ」とぞ。「言ふ」「聞く」など。「あはれ」とこそ。「言へ」「聞け」など。「と」は引用の格助詞

●結びの流れ（消滅）

係り結びを受ける活用語に読点や接続助詞が続いてしまい、文末とならずにそのまま文章が続く場合がある。

〈例〉 たとひ耳鼻こそ切れ失すとも、命ばかりはなか生きざらむ。（徒然草）

↓ 訳 たとえ耳や鼻が切れてなくなったとしても、命だけはどうして助からないことがあるだろうか、いや、助かるだろう。

《その他に押さえておきたい特殊用法》

こそ…已然形、〜。 という形で、「…だが、〜。」と訳す逆接の用法がある。

もぞ…連体形。 ・ もこそ…已然形。 という形で、「…したら困る。…したら大変だ。」と訳す心配・不安の用法がある。

人名こそ、・ 官職名こそ、 という形で、「人名・官職名さん、」と訳す呼びかけの用法がある。この場合は係り結びは行われぬ。

【例題】係り結びの特殊用法

問一 次の傍線部について、後に省略されている語句を考えて答えなさい。

① 「あやし。ひが耳にや」〔 〕。(源氏物語)

② くちばみに刺されたる人、かの草をもみてつけぬれば、すなはち癒ゆとなむ〔 〕。(徒然草)

問二 次の例文における係助詞の用法について、後のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

① 小次郎が薄手負うたるをだに、直実は心苦しうこそ思ふに、この殿の父、討たれぬと聞いて、〔 〕。(平家物語)

② 逢ふことも涙にうかぶわが身には死なぬ葉も何にかはせむ〔 〕。(竹取物語)

ア 疑問 イ 反語 ウ 逆接 エ 結びの流れ(消滅) オ 結びの省略

問三 次の傍線部を助詞の用法に注意して訳しなさい。

① 中垣こそあれ、一つ家のやうなれば、望みて預かれるなり。〔 〕。(土佐日記)

② 「門よく鎖してよ。雨もぞ降る、御車は門の下に、御供の人はそこそこに」〔 〕。(徒然草)

③ 「少納言の君こそ、明けやしぬらむ。出でて見たまへ」〔 〕。(堤中納言物語・改)